

2025年度事業計画書

1 活動方針

2024年度事業を継続・発信する形で実施。とくに2024年度までに取り組んできた事業の仕組みと成果をとりまとめて発展させることと、活動をしていない層へのアプローチについて取り組む。

ア <仕組みと成果のとりまとめ・発信>

(1) 資金支援「まちだづくり応援基金」

2024年度からスタートした「まちだづくり応援基金」の成果を周知して、寄付募集をし、本基金の継続運営の基盤を整備する。

(2) 協働事業

「防犯・交通安全プラスオン事業」、「学生おうえん隊」、「20代が使いたくなる！交通安全啓発グッズプロジェクト/選挙啓発バースデーカード制作プロジェクト」等の協働事業の仕組みや成果をとりまとめて発信し、横展開を目指す。

イ <潜在層・若年層へのアプローチ>

(1) 活動をしていない潜在層へのアプローチ

社会人、リタイア世代等これから活動をスタートしたい層に向けた体験型講座を新たに実施する。

また、若年層へのアプローチとしてこれまで重点的に取り組んできた大学生を対象とした事業をさらに充実させるとともに、小中高生を対象とした職場体験の受け入れや授業なども実施する。

(2) LINE 公式アカウントの導入

開封、申し込みなどの行動につながりやすい広報として、全世代で利用者が最も多く、開封率も高いLINE公式アカウントを導入する。

2 達成目標

団体の活性化 35団体、協働（マッチング件数）12件

3 事業計画

(1) コーディネート事業

ア 相談・伴走支援

顕在化していないニーズや事業の方向性の整理を支援し、関係者や関係機関とのコーディネートなどを行うことで、事業の実現につながる継続した伴走支援を実施する。

【実施目標：相談対応件数 年間150件以上】

イ 協働事業の支援

・協働事業を生み出す場の開催（まちカフェ！オープンデー等）を通じて協働事業の運営支援を実施する。また、まちカフェ！オープンデーでは、市民協働推進課と協力し、市役所開催という点を活かして行政各課への周知を行い、協働につながる取り組みを実施する。

【実施目標：協働事業を生み出す場の開催回数 年間10件以上】

- ・地域コミュニティの未来に関する共同研究の成果報告に関連する地域での対話の場に参加し、各地区の状況把握を進める。

【実施目標：対話の場への参加地区数 年間 10 地区】

- ・教育機関（学生）との連携を促進し、地域活動の担い手を拡充する。

【実施目標：授業・プログラムの実施件数 年間 2 件以上】

（2）情報収集及び発信事業

ア 広報誌の作成

サポートオフィスの事業、市内で活動する団体の紹介等を掲載する他、サポートオフィスの知見等をとりまとめて発信する（例：広報、若者の参加、助成金等）。一部オンライン配信に移行する。

【実施目標：広報誌発行回数 年間 10 回以上／各回 1,000 部】

イ ホームページ運営及びSNS・メルマガ等を活用した情報発信

- ・ホームページ（情報や知識のストックを目的とした広報）

市内外の活動事例、知見、サポートオフィス主催講座の報告を記録し、参加者以外も活用できる情報としてストックする。また、情報発信の効果を確認するために閲覧数を確認できるようホームページ用を改修する。

【実施目標：ホームページの更新件数 年間 100 件】

- ・SNS（情報の拡散を目的とした広報）

開封、申し込みなどの行動につながりやすい広報として、全世代で利用者が最も多く、開封率も高いLINE公式アカウントを導入する。

【実施目標：公式 LINE の開設完了】

（3）地域活動を行う組織の基盤強化及び人材育成事業

ア 講座開催

引き続き活動団体のニーズを把握し講座を開催。開催後は、ウェブコンテンツとしてホームページ上に講座で扱ったポイント等を掲載する。

・地域デビュー講座（仮）【新規】

これから活動をしたい層を対象とした講座を新たに開設する。ノウハウだけではなく、自分自身のやりたいことや強みを明らかにするゲームやワークなどを盛り込んだ参加しやすいプログラムとする。

・活動に関するノウハウ講座【継続】

助成金、広報、学生・若い世代の団体への参加促進等、団体からニーズのある活動に関するノウハウ講座をまちカフェ！オープンデー内で開催。参加しやすいプログラムにすることで、今までオープンデーに来なかった層へもアプローチしていく。

・インクルーシブ研究会【継続】

2024年度よりスタートした、インクルーシブな場づくりのヒントを学ぶ講座を継続開催する。

【参考】2024年度のインクルーシブ研究会で扱ったテーマ

車椅子等、障がいがある方とのコミュニケーションの取り方
視覚障害の方の日常を体験しよう！
子どもが安心できて心地よく過ごせる場づくりのヒント
障がいと共に地域で自立して暮らす
性の多様性を知り、みんなで仲間になろう！

- ・みんなの経験共有会【継続】 参考：2024年度末までに21回開催
 2024年度に実施した「温故知新シリーズ」（2024年度実績：「町田の冒険遊び場と子ども真ん中の取り組みのあゆみ」、「福祉の町田を担った市民たち第2弾～町田ハンディキャップ友の会～」、「福祉の町田を担った市民たち～町田すまいの会のあゆみ～」）を継続開催する。また、協働による地域づくりにとって重要な機能である「コーディネーター」に着目し、町田市内のコーディネーターをゲストとしたシリーズを新たに実施する。シリーズの内容からコーディネーターの実践知をとりまとめて発信する。

【実施目標：上記アの講座の開催回数 年間13回】

イ まちだづくりカレッジ【継続】

サポートオフィス設立以来実施している連続講座「まちだづくりカレッジ」は、団体支援（組織づくりコース）と個人支援（ナリワイコース）の2つのプログラムを実施する。団体支援コースは、ニーズの高い広報にクローズアップしたプログラムとし、新たな層にアプローチする。

【実施目標：上記イの連続講座コースの完了回数 年間2回】

ウ シンポジウム「まちだづくりサロン特別編」

市内活動団体の横のつながりづくり及び地域活動の裾野を広げることを目的に、外部講師を招聘して、社会状況や地域活動について広い視点でとらえることができるシンポジウム「まちだづくりサロン特別編」を開催する。

【実施目標：上記ウのサロンの開催回数 年間1回】

【参考】これまでのテーマと講師

2021年度	「私が動く、地域が変わる～今見つめ直す市民活動の価値と未来」	山岡義典氏(特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド理事長)
2022年度	「『協力』のテクノロジー～違うを大切に協力できる地域をつくる～」	松原明氏(特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会創業者、NPO法人協力アカデミー代表)
2023年度	調べるちから、伝えるちからを身につける～「薄書（はくしょ）」でもいいから、「白書」を作ろう！～	川北秀人氏 IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表者
2024年度	参加者全員がもっと関わりたくなる活動づくりのヒント	西川正氏(NPO法人ハンズオン埼玉副代表理事／真庭市中央図書館館長)

エ 町田市市民協働フェスティバルまちカフェ！

- ・町田市市民協働フェスティバルまちカフェ！を各団体が新たな取り組みや協働事業を試験的に実施する場として位置づけ、必要な資源の提供、団体間の連携・協働の促進のためのプログラムや個別のマッチングを実施する。この取り組みをもって協働事業への発展を目指す。

【実施目標：協働による企画の実施件数 年間10件】

- ・2023年度まちカフェ！実行委員会の中で提案のあった「子どもまちカフェ！」（子ども主体で実施するまちカフェ！）の開催について参加団体と実施の検討をすすめる。

- ・まちカフェ！全体企画、参加団体支援を行うボランティアとして「おうえん隊」を広く募集し、地域活動への参加を促進する。大学に加えて高校への周知も広げ、若い世代の参加を促進する。

【実施目標：学生おうえん隊の実施1回・ワンデイおうえん隊各1回】

【参考】2024年度・第18回町田市市民協働フェスティバルまちカフェ！実績

参加団体数／実施企画数	冊子掲載144団体 企画実施146団体 169企画 うち中止3企画 11/30(土)市役所庁舎133団体 133企画
来場者数	11/30 市役所会場 7,182人 その他 2,485人 合計 9,667人
おうえん隊	学生おうえん隊 24名(2020年度よりのべ95名が参加) おうえん隊・ワンデイおうえん隊 50名、2団体

オ その他 若年層へのアプローチ

- ・小中高生を対象とした職場体験の受け入れや授業実施などを実施する。

- ・選挙管理委員会との協働により若者による若者向け選挙啓発企画を実施することを通じて若い世代が主体的に取り組むプロジェクトを支援する。

- ・2023年度から昭和薬科大学と協働で実施している「地域活動実践プログラム」を継続実施する。またその成果を発信し、他大学との協働の可能性についても検討をすすめる。

(4) 地域活動に関する調査研究事業

支援体制の強化に向けた調査事業

- ・まちカフェ！参加団体を中心にヒアリング調査を行い、町田市内の団体の運営課題や町田市内の地域課題の把握をすすめる。

【実施目標：ヒアリングを実施した団体数 年間10団体】

- ・市外中間支援組織の支援状況の把握や他市との連携を強化するため、ヒアリングや研修・会議への参加を行う。

【実施目標：ヒアリングまたは研修、会議へ参加した回数 年間2回以上】

(5) 資金調達事業

ア 地域活動の資金支援の仕組みの構築

2024年度よりスタートした「まちだづくり応援基金」の成果と仕組みを周知して、継続運営の基盤を整備する。

【参考】これまでの収支概要（2023年度～2024年度）

2025/2/5 現在

収入	
設立寄付	1,000,000
法人寄付	100,000
募金箱他個人寄付	46,954
支える手チャリティーコンサート	30,174
雑収益	60
収入合計	1,177,188
支出	
8団体／個人への助成	397,000
雑支出(手数料)	3,300
支出合計	400,300
差し引き合計	776,888

【実施目標：寄付募集イベント実施回数 年間1回／達成目標： 年間寄付額合計10万円
達成目標：寄付に賛同した人数・団体数 年間40人・団体】

イ 助成金講座と個別支援を組み合わせた支援プログラムの実施

まちだづくりカレッジの見直しと並行して、ニーズの高い助成金をテーマにした講座と個別支援を組み合わせたプログラムを検討し、実施する。

【実施目標：プログラムの実施回数 年間2回】

ウ まちだづくり応援基金を通じて市内団体に資金支援を行い、助成金の交付だけでなく、事業実施を伴走し、資金支援による事業成果を高める。また、他の補助金・助成金の申請、寄付募集等の支援を実施する。

【達成目標：まちだづくり応援基金により助成金を交付した団体数 年間6団体
その他助成金等申請支援 年間2団体】

(6) その他

「町田市5ヵ年計画22-26」の計画の見直しと併せて、地域活動サポートオフィスの事業の成果を振り返り、現在の成果指標を見直すための検討をすすめる。